

年の生存期間とされており (Leibovich ら J Urol. 2005), サイトカイン療法の導入後もあまり, 変わらない。しかし, 本邦では欧米の報告に比べ, 転移してからの予後は, それほど悪くない印象がある。新潟大学とその関連施設で行っているサイトカイン療法を行なった転移性腎細胞癌患者の平均生存期間は約 440 日あった。そこでインターフェロン  $\alpha$  による adjuvant immunotherapy が主体の当院での転移性腎細胞癌症例の癌特異的生存について, 検討を行なった。

【対象と方法】1990 年から 2005 年の 16 年間に腎摘を行なった腎細胞癌症例 521 例のうち, 腎摘時からの転移症例 53 例, 観察期間中に転移が生じた症例 86 例であった。

【結果】初診時転移症例の生存率は 1 年; 58 %, 2 年; 38 %, 再発症例では 1 年; 71 %, 2 年; 57.5 %, であった。

【考察・結論】我々の検討では欧米の報告に比し, 良好な生命予後の結果が得られた。

## 7 前立腺癌生検病理診断の ISUP のコンセンサスに基づく Gleason score の再評価と臨床的リスクに及ぼす影響

若生 康一\*・\*\*・川崎 隆\*  
原 昇\*\*・梅津 哉\*・西山 勉\*\*  
内藤 眞\*・高橋 公太\*\*  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
細胞機能講座分子細胞病理学分野\*  
同 腎泌尿器病態学分野\*\*

【目的】Gleason score の新しい診断基準である ISUP (The 2005 International Society of Urological Pathology) Gleason grading system とこれまでの診断基準 (Original Gleason grading system) を比較し, ISUP Gleason grading system が患者の治療選択に及ぼす影響を調べる。

【方法】2004 年及び 2005 年の 2 年間に新潟大学医学部付属病院で 168 名の患者に対し経直腸的前立腺針生検が行われそのうち 89 例が前立腺癌と診断された。これら 89 例の Gleason score の診断を次の 3 グループに分け行なった。Diagnosis A;

Original Gleason grading system に基づく General pathologists による診断, Diagnosis B; Original Gleason grading system に基づく Single pathologist による診断, Diagnosis C; ISUP Gleason grading system に基づく Single pathologist による診断。また, Diagnosis A, B, C を Kattan の nomogram に当てはめた場合の根治的前立腺全摘除術, 体外照射療法, 小線源療法における 5 年 PSA 非再発率を比較した。

【結果】Gleason score, primary Gleason pattern のいずれにおいても Diagnosis C において Diagnosis A 及び Diagnosis B に比較し grade が上昇した。Diagnosis A 及び Diagnosis B の Gleason grade の間に有意な差はなかった。また Kattan の nomogram に当てはめた場合, 根治的前立腺全摘除術, 体外照射療法, 小線源療法の全てにおいて Diagnosis C による 5 年 PSA 非再発率が Diagnosis A 及び Diagnosis B の場合に比較し有意に低下した。

【結語】ISUP Gleason grading system は watchful waiting も含め患者の治療選択に大きな影響を与えるものと考えられた。

## 8 子宮頸部腫瘍における Human Papillomavirus (HPV) 検査の意義

児玉 省二・小島 由美・笹川 基  
本間 滋  
県立がんセンター新潟病院産婦人科

【目的】子宮頸部の細胞診に HPV 試験を併用し, 診断的意義を明らかにすること。

【方法】子宮頸部のがん検診希望者, 二次検診紹介者, 異形成で定期的な観察者を対象とした。HPV・DNA 検査は, ハイブリッドキャプチャー法 (中-高リスク型 13 種類) で検索した。

【成績】HPV 検査陽性は 1351 例中 27.9 % で, その内訳はがん検診希望者 812 例中 5.5 %, 二次検診紹介者 297 例中 73.7 %, 異形成観察者 242 例中 46.5 % であった。HPV 陰性 974 例のうち, 異形成 33 例, 上皮内癌 6 例, 浸潤癌 7 例 (腺癌 5 例, スリガラス細胞癌 1 例, 扁平上皮癌 1 例) で